

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立

北星小 学校

学級数

8

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

「自ら学ぶ北星っ子」の育成

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

- 1 取組のきっかけ
昨年度末の学校評価で職員の間から、本校の子どもたちにつけたい力として、論理的思考力があげられた。授業中に自分の考えを話したり、書いたりするように表現しなくてはならない場面において、なかなか学習を進められない現状がある。一部の子の意見に頼っていることが多い。また、日常の生活場面においても、自分の考えを的確に説明できなくて、困ってしまうこともある。そこで、今年度から、研究として、取り上げることにした。
- 2 取組の位置付け
今年度より始まったので、研究部が方向性を定め、進めている。
- 3 取組の方法
低学年と高学年の2ブロックに分かれて、ブロック内での公開授業と全体での検証の授業を行う。また、ブロックごとに、発達段階に応じた学習常規の確立も考えている。

取組の成果と課題等

- 取組の成果
 - ・ 研究主題である「論理的思考力を高める学習指導の工夫」に沿って全クラス（専科も含む）で公開授業を行った。
（成果）→・研究部や一部の授業公開者だけでなく、全員が日常の授業に研究主題を意識して授業への工夫を図ることができた。
 - ・ 全学年が授業を公開したことにより発達段階における論理的思考力について、授業の様子を元に共通理解を図ることができた。
 - ・ 様々な教科で授業を公開したことにより教科の特性に合わせた論理的思考力と言語活動の考え方の共通理解を図ることができた。
 - ・ 低・高ブロックごとに、少人数による授業作りを進めた。
（成果）→・全員が能動的に研究に参加し、活発な意見交換ができた。
 - ・ 複数指導体制の活用を図った。
（成果）→・児童の実態の把握や変容をみとるために複数指導体制を活用し、研究の方向性や検証のための資料を得ることができた。
- 教育課程検証の方法
 - ・ 単元末テストや学力テスト及び学習意識調査の結果などの客観的データから児童の変容を分析していく予定である。
 - ・ 研究授業の記録や事後研の話し合い、児童の作品、ワークシート、複数指導体制などから得られた資料から児童の変容を分析・確認し、まとめていく予定である。
 - ・ 学校評価の際に出された意見、保護者アンケートの結果から児童の変容をとりまとめ、全体で次年度への方向性を決めていく予定である。